

主を 仰ぎ望む BWV150

1 シンフォニー

2 主を 仰ぎ望む 合唱 BWV150_2

主よ、あなたを慕い仰ぐ。
わが神、わたしはあなたに望む。
主よ、恥をかかせないでください。
わたしの敵が勝ち誇ることが
ないようにしてください。

(詩編 25:1,2)

3 だがわれら満ち足りている アリア・ソプラノ

だがわれら満ち足りている。
この世で十字架、嵐、もろもろの試練
死や黄泉の国、また思わぬ災いが
忠実な僕に降りかかっても
正義は永遠にかわらない。

4 導きませ私を 合唱

導きませ私を
あなたのまことへ導いて
私をおしえてください。
わが神よ、主よ、
あなたはわたしの助なれば
日ごとに 神をまちのぞむ。

(詩編 25:5)

5 杉の木は風にふかれ アリア・アルト、テノール、バス

杉の木は風にふかれ 多くの苦難に会い
倒されることもある。
されど、神の決定と行動に
だれも逆らえない。
というのは、神のことば比類ないものだから。

6 わが目は主を見上げる 合唱

わが目は主を見上げる。
主はわが足を網から救い出される。

(詩編 25:15)

7 苦しみの日々を 合唱

苦しみの日々を
よろこびに終わらせたもう。
いばらの道を行く者を
天の力と祝福が導く。
神はまことのみもりなれば
人が負う十字架をいとわない。
がそばに立ちたもう主は
日々たたかいに勝たしめたもう。

初演 1708～1710年ごろ

バッハが日曜礼拝で説教の前後に演奏した時、通常、説教前3曲:1.合唱またはシンフォニー、2.聖書朗唱、3.アリア、説教後に3曲:4.聖書朗唱、5.アリア、6.コラールという形で作曲演奏していた。こう考えると聖書朗唱がないこの曲はライプツィヒのトマス教会に就任する前につくられていたと考えられている。その意味では礼拝形式から自由な詩編 25 に自由詩を加えた曲といえることができる。

現実の苦しみから神を見上げ、慕いあえぐ。詩編の作者ダビデ王の実体験と重ね合わせると、意味深く思われる。